



令和4年度 赤十字活動のご報告



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

1. 災害救護活動

赤十字は、日本赤十字社法、災害救助法、災害対策基本法などによって、災害発生直後から復興期までの救護活動やこころのケア活動を行う組織として位置付けられています。

また、三木市に整備した「日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センター」において、施設機能を活かして救護員研修などを実施し、更なる災害救護体制の充実と強化に努めています。

① 救護班と救護員の編成及び各種防災・救護訓練の実施

自然災害や大事故が発生し救護班が必要になった場合に直ちに活動できるよう、県内3カ所の赤十字病院に救護班を編成し、要員登録を行っています。

また、姫路及び神戸赤十字病院では、災害の超急性期に対応する日本DMAT（災害派遣医療チーム）隊員に67名を登録し、発災直後に医療救護が行えるよう資機材を含め備えています。兵庫県支部では、今後、いつ発生するかもしれない大災害に備え、各種防災訓練に参加し、他機関との連携を図りました。また、コロナ禍における災害救護活動を実施するため、感染防護資材を備蓄しています。



● 主な救護訓練参加状況

6月	日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練
7・9月	神戸空港緊急計画連絡協議会図上訓練
	兵庫県合同防災訓練
9月	三木市総合防災訓練
	第八管区海上保安本部合同訓練
10月	大規模地震時医療活動訓練
	神戸空港航空機事故対策総合訓練
	姫路市総合防災訓練
11月	兵庫県石油コンビナート訓練
	姫路駅前都市型対応訓練
	大阪国際空港航空機事故対策部分訓練
1月	1.17ひょうご安全の日防災訓練
	兵庫県警察総合災害警備訓練

● 救護員研修会

5月	救護員技術研修
6月	救護員基礎・実践研修
6・9・12・3月	衛星電話通信研修
7月	災害システム研修
8月	新興感染症クラスター対応研修
9月	災害派遣医療チーム技能維持研修
10月	災害拠点病院研修
12月	原子力災害対応基礎研修会
1・2月	こころのケアフォローアップ研修

● 救護班数

姫路赤十字病院	8班
多可赤十字病院	2班
神戸赤十字病院	5班
合計	15班

● 救護班の編成基準

医 師	1人
看護師	3人
主 事	2人
1班合計	6人

● 感染防護資材備蓄数

感染防護資材	備蓄数	感染防護資材	備蓄数
サージカルマスク	19,152	アイソレーションガウン(医療用ガウン)	2,080
高機能マスク(N95マスク)	850	防護キャップ	600
フェイスシールド	740	ニトリル/プラスチック手袋	7,100
防護服	600	非接触体温計	4

● 日本DMAT 隊員登録数

	医 師	看護師	業務調整員	計
姫路赤十字病院	5人	13人	9人	27人
神戸赤十字病院	9人	6人	25人	40人
合 計	14人	19人	34人	67人

② 救援物資の備蓄・配付

個人の住宅やマンションが火災や水害等に遭われた際、毛布や緊急セットなどを配付しました。また、不幸にもお亡くなりになられた場合には、ご遺族に災害見舞金を交付しました。



毛布



緊急セット



安眠セット



タオルケット

区 分	配布数	備蓄在庫数
毛布	263枚	7,869枚
緊急セット	122セット	4,142セット
安眠セット	0セット	811セット
タオルケット	0枚	6,000枚

災害見舞金の交付27件 680,000円

(令和5年3月末現在)

③ 赤十字防災ボランティア

赤十字の災害救護活動に協力することを目的として、現在、防災ボランティアリーダー5人、サブリーダー2人、そして個人ボランティア56人が赤十字防災ボランティアとして登録しています。

令和4年度においては、「防災ボランティアのためのこころのケア」というテーマで、災害時における被災者への接し方やボランティアの安全と健康管理などについて、講義・グループワークを通じて意識の醸成を図りました。



④ 国内災害義援金・海外救援金の受付額

令和4年度に兵庫県支部でお受けした
災害義援金、海外救援金は次表のとおりです。

義 援 金	平成30年7月豪雨災害	40,215
	令和2年7月豪雨災害	63,874
	令和4年3月福島県沖地震災害	64,834
	令和4年7月大雨災害	62,402
	令和4年8月3日からの大雨災害	2,048,872
	令和4年台風第15号災害	308,459

		(円)
救 援 金	中東人道危機	2,120
	バングラデシュ南部避難民	102,268
	アフガニスタン人道危機	62,472
	ウクライナ人道危機	32,985,541
	2022年アフガニスタン地震	30,571
	2022年パキスタン洪水	180,310
	2023年トルコ・シリア地震	23,851,049
	海外無指定	10,220
義援金・救援金 合計		59,813,207
		(令和5年3月末現在)

2. 健康と安全を守る講習

赤十字では、誰もが持っている「苦しんでいる人を助けたいという優しい心」、その優しさを行動に移す“自信”と“勇気”を持っていただけるように、AED(自動体外式除細動器)を活用した心肺蘇生をはじめ、救急法や健康生活支援講習などの講習と赤十字防災セミナーを県内各地やオンラインで開催しました。

また、救急法、幼児安全法、赤十字防災セミナーの指導者養成を行い、講習の指導体制の強化を図りました。



防災セミナー



救急法

開 催 実 績	区 分	基礎・養成講習		短期講習		オンライン講習		指導者養成	
		回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
	救急法	81	876	137	4,200	32	662	1	11
	幼児安全法	5	36	34	362	7	25	1	6
	水上安全法	2	24	8	137	—	—	—	—
	健康生活支援講習	4	51	12	277	3	3	—	—
	防災セミナー	—	—	15	896	5	15	1	6

(令和5年3月末現在)

3. 赤十字奉仕団

赤十字の使命とする人道的な諸活動を身近な社会の中で実践しようとする人々が集って結成されたボランティアの組織です。兵庫県支部では、市町を基盤にした地域奉仕団(44団、33,125人)、専門的な技能をもった人々による特殊奉仕団(9団、491人)、学生が中心となった青年奉仕団(2団、151人)が組織され、様々な活動を展開しています。

① 地域赤十字奉仕団

(1) 地域赤十字奉仕団員研修会

10～12月、地域赤十字奉仕団員研修会を県内15会場で開催し、西脇市、高砂市、加西市、神戸市灘区、加東市、神戸市長田区、香美町、神戸市東灘区、伊丹市、川西市、丹波市、太子町、多可町、神戸市北区、新温泉町、芦屋市の地域赤十字奉仕団員300人が赤十字のしくみと活動について講義を受けた後、災害発生後に直面する地域の問題などについて話し合いました。



(2) 西播磨赤十字奉仕団研修大会

12月、赤穂市赤十字奉仕団が青少年赤十字メンバー(赤穂市立赤穂中学校)とともに、きずの手当、避難所で役立つ実技(段ボール活用法)を体験しました。

② 特別赤十字奉仕団(青年赤十字奉仕団・特殊赤十字奉仕団)

特別赤十字奉仕団は、点字、無線、潜水、写真、通訳など専門的な知識や技術を活かした活動を展開しています。

令和4年度は、「ぼうさいこくたい2022」において全国無線通信訓練、無線体験、自動ラップ式トイレの使用法、ロープワークなど、災害救護活動の体験ブースを運営しました。

また、神戸青年赤十字奉仕団は青少年赤十字加盟校のマリスト国際学校と合同防災学習を実施しました。



4. 青少年赤十字

世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成を目的に、学校教育の場で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実践目標を掲げ活動を展開しています。

加盟校数194校 メンバー数61,528人（令和5年3月末現在）

① 青少年赤十字創設100周年事業

(1) 青少年赤十字創設100周年記念プロジェクト Challenge for the future

～雲の切れ間に希望を重ねて、さぁ行こう！～

【8月9日：中学生11名、高校生21名、指導者 12名】

赤十字の歴史やリーダーシップの学習をした後、救急法講習、最後に青少年赤十字創設100周年記念ダンス企画を実施しました。



(2) ぼうさいこくたい2022×青少年赤十字創設100周年記念 兵庫県赤十字救急法競技大会

10月22日(土)、ぼうさいこくたい2022に合わせて、兵庫県赤十字救急法競技大会を開催し、加盟校6校を含む、計26チーム97名の方に参加いただきました。



(3) ぼうさいこくたい2022×青少年赤十字創設100周年記念 防災フェスタ

10月23日(日)、ぼうさいこくたい2022に合わせて、防災フェスタを開催し、兵庫県立尼崎小田高等学校にブース出展いただき、「防災すごろく」や「防災ビンゴゲーム」を実施しました。

(4) その他

青少年赤十字創設100周年事業として、100周年記念旗に寄せ書きを行い、旗は花時計ギャラリーにおいて掲示しました。

5月には、兵庫県立尼崎小田高等学校の青少年赤十字メンバーにラジオ出演してもらい、青少年赤十字事業のPRを行いました。

また、100周年を機に、赤十字・青少年赤十字への理解を深めてもらうことを目的に、ホームページにて「赤十字・青少年赤十字クイズ」を実施しました。

② 青少年赤十字研究推進校

加盟校における青少年赤十字活動をより充実したものとするため、年度毎に研究推進校を指定し、赤十字の指定するテーマについての研究を委嘱しています。令和4年度は、小学校2校、高等学校2校の計4校を指定し、その研究成果を各学校からWebツールを活用し、兵庫県青少年赤十字研究会にて報告いただきました。

③ 提供プログラム

兵庫県支部では、加盟校が各学校のカリキュラムの中で青少年赤十字活動を展開できるよう、「健康・安全」「福祉教育」「国際理解・平和」「防災教育」の4つの分野の活動プログラムを提供しており、令和4年度は延べ82回実施しました。（令和5年3月末現在）



5. 国際活動

世界192の国や地域の赤十字・赤新月社などと連携して、開発途上国赤十字社の事業への協力支援、また民族紛争や自然災害による被災者支援への緊急及び復興支援などの人道的活動を行っています。

① 国際救援・開発協力要員を海外へ派遣

派遣先	レバノン共和国・ベイルート等	業務内容	パレスチナ赤新月社医療支援事業
派遣期間	R4.4.4～R4.12.21	派遣者	姫路赤十字病院看護師



② インドネシア・コミュニティ防災事業

世界有数の災害多発国であるインドネシアにおいて、地震と津波などの災害から命を守るため、日本赤十字社はインドネシア赤十字社とともに、コミュニティ防災事業に取り組んでおり、兵庫県支部もこの活動を支援しております。

③ 海外たすけあいキャンペーン

紛争や災害で苦しむ人々や感染症など病気で苦しむ人々を支援するため、今年で40回を迎える募金キャンペーンを12月に開催し、県内の各地区・分区などを通じて広く県民の皆さまから、また赤十字奉仕団や日赤有功会等の皆さまから多大なご協力をいただきました。



兵庫県支部の実績額 6,187,653円

6. 活動資金

国内外の災害救護活動や各地域で安全安心のため取り組まれる赤十字活動は、活動の意義や理念にご賛同いただいた方々(会員といいます。)からお寄せいただく活動資金と、多くのボランティアの方々の奉仕等によって支えられています。ご協力いただいた活動資金や奉仕活動は、日本赤十字社の組織的基盤であり、活動を推進するうえでの原動力となっています。

■地区・分区における活動資金のご協力額

各地区・分区(県内各市町)におきまして活動資金へのご協力をお願いし、多くの方々からご協力をいただきました。ご協力いただいた活動資金は、被災者の救援活動や災害への備え、そして地域の安全安心のための活動などに役立てられています。

地区・分区		ご協力額	地区・分区		ご協力額	地区・分区		ご協力額
神戸市	東灘区	7,064,158	相生市		4,414,310	朝来市		4,052,548
	灘 区	3,714,734	豊岡市		9,995,722	淡路市		4,802,122
	中央区	1,814,465	加古川市		9,723,930	たつの市		9,728,950
	兵庫区	2,066,564	赤穂市		6,958,700	加東市		3,508,600
	北 区	3,038,994	西脇市		3,028,144	阪神北	猪名川町	3,184,045
	長田区	2,852,461	宝塚市		6,413,877	東播磨	稲美町	3,536,000
	須磨区	2,894,797	三木市		3,262,868		播磨町	3,227,813
	垂水区	3,479,170	高砂市		6,393,228	北播磨	多可町	2,399,600
西 区	2,305,637	川西市		4,967,125	中播磨	市川町	1,720,500	
神戸市小計		29,230,980	小野市			4,446,550	福崎町	2,383,502
姫路市		51,501,701	三田市			3,371,108	神河町	1,917,600
尼崎市		15,855,084	加西市		3,664,289	西播磨	太子町	3,236,324
明石市		2,854,235	丹波篠山市		4,606,462		上郡町	2,506,900
西宮市		25,421,961	養父市		3,209,220		佐用町	2,591,511
洲本市		2,144,200	丹波市		7,132,336	但 馬	香美町	2,612,215
芦屋市		3,379,606	南あわじ市		4,635,120		新温泉町	2,074,500
伊丹市		4,713,244	宍粟市		5,157,100	地区・分区合計		279,963,830
						支部扱い		210,487,982
						総 計		490,451,812

(令和5年3月末現在 円)

7. 医療事業

姫路、多可、神戸の赤十字病院では、いずれも各地域の中核病院として救急医療やへき地医療など安全で安心な医療サービスの提供を行うとともに、日本赤十字社の使命でもある災害救護活動や国際活動を展開できる体制の強化を図りました。

また、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に対し、各病院では通常の診療を継続しながらも、感染症への対策を強化するなど、医療体制の整備を行っています。

姫路赤十字病院 住 所:〒670-8540 姫路市下手野1-12-1
電話番号:079-294-2251

標榜科目:内科、消化器内科、血液・腫瘍内科、肝臓内科、腎臓内科、糖尿病内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、小児外科、外科、乳腺外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、麻酔科、緩和ケア内科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、臨床検査科、化学療法内科

多可赤十字病院 住 所:〒679-1114 多可郡多可町中区岸上280
電話番号:0795-32-1223

標榜科目:内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、婦人科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、皮膚科、精神科、麻酔科、歯科

神戸赤十字病院 住 所:〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-1
電話番号:078-231-6006

標榜科目:内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、心療内科、脳神経内科、外科、消化器外科、乳腺外科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、皮膚科、病理診断科

令和4年度 業務実績

(人)

区分	姫路		多可		神戸	
	延べ患者数	一日平均	延べ患者数	一日平均	延べ患者数	一日平均
外来患者	337,776	1,390	30,510	126	130,315	536
入院患者	170,833	468	26,322	72	91,297	250

8. 看護師養成

看護専門学校では、一般の看護教育にとどまらず、国内外における災害救護活動においても活躍できる看護師の養成を行いました。

定員数、在籍者総数

(人)

定員数	学年	1年生	2年生	3年生	合計
各学年40名	令和4年度学生数	47	37	41	125

(令和5年3月末現在)

卒業生

	卒業生数	国家試験合格率	就職率
令和4年度	37名	100%	100%

9. 血液事業

血液事業では、全国7カ所にブロック血液センターを置き、献血者や血液製剤の安全対策の充実や血液製剤の安定供給をはじめ、事業の効率化、健全な経営基盤の確立を図っています。兵庫県赤十字血液センターは、近畿ブロック血液センター内の地域血液センターとして、県内7カ所の献血ルームと移動採血車で、県民の皆様や県内で働く方々に献血いただく「採血業務」と、血液製剤を県内の医療機関にお届けする「供給業務」を担っています。

コロナ禍においても、Web予約の推進を強化するなど、安定的に献血者を確保して、兵庫県内だけでなく近畿管内全体の安定供給に貢献することができました。

また、SNS、オンラインセミナー等を活用し、若年層を中心とした幅広い年齢層を対象に、様々な献血推進活動を展開しました。

主な取り組み例

- 全国学生クリスマス献血キャンペーン
- はたちの献血キャンペーン
- 世界献血者デー
- 愛の献血助け合い運動
- 献血セミナー

献血者の受入

(人)

成分献血	400mL献血	200mL献血
62,316	147,160	5,404

(令和5年3月末現在)

輸血用血液製剤の供給

(本)

赤血球	血漿	血小板
237,929	90,138	295,835

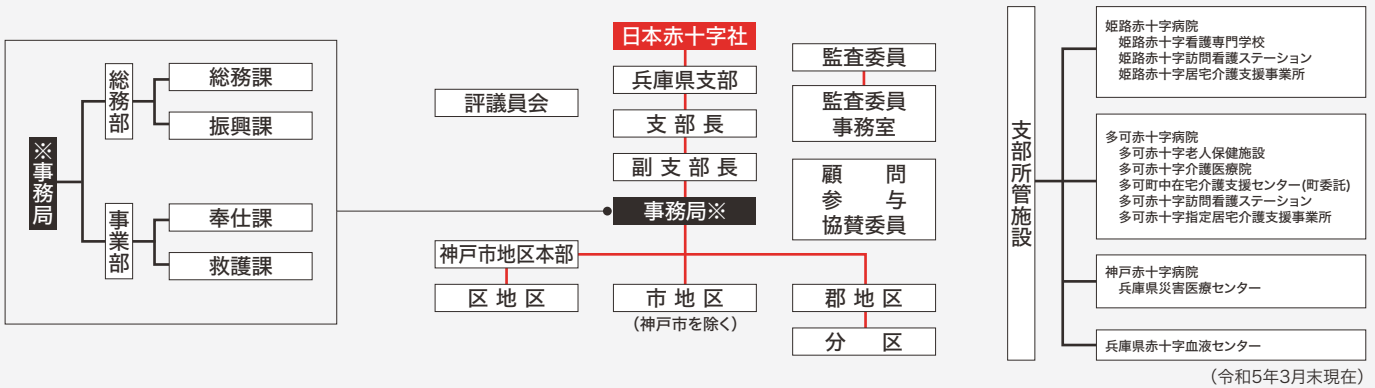
(令和5年3月末現在)

10. 日本赤十字社兵庫県支部の現勢

■支 部 長:齋藤元彦(兵庫県知事)

■副支部長:山下輝夫(兵庫県保健医療部長)、小原一徳(神戸市副市長)、庵谷典章(兵庫県町村会長)

■監査委員:3名 ■支部参与:3名 ■協賛委員:8名 ■評議員:54名



11. 決算報告

令和4年度の各施設等の歳入歳出決算を報告します。

一般会計

個人や法人の皆様からの活動資金等を主な財源に、災害救護、救急法等の講習、青少年赤十字やボランティアの活動など、兵庫県支部の事業にかかる収支をまとめたものです。

■日本赤十字社兵庫県支部

(千円)

	科 目	決算額	内 訳
歳入	活動資金収入	524,825	一般からの活動資金収入 432,226千円 法人からの活動資金収入 58,225千円 個人住民税控除海外救援金 34,374千円
	補助金、交付金	3,947	本社交付金等
	繰入金	35,674	国際活動資金などから繰入
	前年度繰越金等	84,427	前年度繰越金、雑収入
	歳入合計	648,873	
歳出	災害救護事業費	36,039	災害救護に要した費用及び救護装備整備費、救護看護師の養成経費
	社会活動費	57,298	救急法等の講習普及事業費、赤十字奉仕団や青少年赤十字の育成費など
	国際活動費	35,386	海外赤十字社支援事業費など
	指定事業地方振興費	89,365	災害救護設備整備費、採血受入機関整備費、救急医療体制整備費など
	地区区分交付金	57,764	地区区分への事務費及び事業費の交付金
	社業振興費	53,571	活動資金募集及び会員管理費、広報活動費
	基盤整備交付金	33,230	管内施設への基盤整備交付金
	積立金支出	42,759	災害等資金などへの積立金
	本社送納金	63,672	本社への送納金
	管理費等	123,863	管理事務費、資産管理費など
	歳出合計	592,947	
	歳入歳出差引額	55,926	

医療施設特別会計

医療施設の運営等にかかる収支をまとめたもので、赤十字病院等医療施設の診療収入を主な財源として、医療施設運営のための費用等に充てられます。

■県内3赤十字病院(姫路、多可、神戸)

(千円)

	科 目	決算額	内 訳
収益的収入	医療収益	36,324,459	入院及び外来の診療等にかかる収益 入院患者数 288,452人 外来患者数 498,601人
	医療外収益	3,758,874	駐車場や売店等の収益、受取利息等
	医療社会事業収益	42,980	医療社会活動にかかる本社繰入金など
	付帯事業収益	3,155,678	看護専門学校、老人保健施設等の収益
	特別利益	9,924	上記に含まれない過年度収益など
	収益的収入合計	43,291,915	
収益的支出	医療費用	34,759,365	人件費、材料費、委託費など
	医療外費用	285,102	支払利息、駐車場等の管理費など
	医療奉仕費用	564,073	医療社会活動にかかる人件費・経費など
	付帯事業費用	3,298,878	看護専門学校、老人保健施設等の運営にかかる経費など
	特別損失	13,607	固定資産にかかる除去損など
	法人税等	16,874	税負担など
	収益的支出合計	38,937,899	
収支差引額		4,354,016	黒字施設数 3施設 黒字額 4,354,016千円 赤字施設数 0施設

※平成24年度から血液事業特別会計は、日本赤十字社本社にて一元化されたため記載しておりません。

あなたの身近に赤十字

救急医薬品の寄贈・AEDの配備

園児のとっさの手当て等にご活用いただくため、県内の保育所971カ所に救急医薬品を寄贈しました。

また、県内の警察署・交番など警察関連施設にAED(自動体外式除細動器)を配備し、県民の安全安心に役立てていただいております。



あなたの街の災害救援車

県内の各市町での災害救援や赤十字活動を支援するために災害救援車を配備しています。令和4年度は、伊丹市地区、高砂市地区、中播磨地区、香美町分区の4台の車両を更新しました。



赤十字ポスターコンクール

県内の小・中・高・特別支援学校を対象に「いのちを守る赤十字活動」「つなげよう! 青少年赤十字」をテーマに作品を募集したところ、今年度は61校323作品の応募があり、33作品が入賞しました。



一次救命処置普及イベントの開催

「いのちのいずみプロジェクトwith西宮阪急・日本赤十字社」(9月)、「加西市子ども消防・防災体験inうずらの」(12月)に参加し、一次救命処置の普及に努めました。成人のみならず、乳幼児の一次救命処置の普及にも力を入れて実施しました。



赤十字活動をPR

5月の赤十字運動月間を中心に、赤十字活動を広く知っていただくため、レッドライトアッププロジェクトや、テレビ・ラジオ・YouTube・LINE広告などでPRしました。

開催日	イベント名	開催施設名
5月8日	赤十字レッドライトアッププロジェクト	明石海峡大橋
通 年	テレビ・ラジオ・YouTube/ LINE動画広告	メディア関係



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

赤十字 兵庫

検索

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/>

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号
TEL.078-241-9889 FAX.078-241-6990

